

AI産業で世界首位を目指す中国

◆AI関連分野で米国を追いかける中国

中国は2017年7月に発表した「次世代人工知能（AI）発展計画」で、AI関連産業の育成によって、30年にイノベーション創出型の世界をリードする科学技術強国となるロードマップを作成している。第一段階として、20年にAI技術とその応用分野で世界水準に並び、さらに30年には周辺産業を含めたAI関連産業の規模を10兆元（約170兆円）に拡大するという目標を掲げている。

AIの領域において中国は、特許件数で既に世界第2位のポジションを占めている。05年から09年までの5年間と10年から14年までの5年間のAI領域における各国特許庁への出願件数を表したものが、右上の表である。

	AI特許出願数と伸び率		単位：件数 伸び率
	05～09年	10～14年	
米国	12,147	15,317	26.1%
中国	2,934	8,410	186.6%
日本	2,134	2,071	-3.0%

中国は総件数では米国に及ばないが、伸び率では米国をはるかに上回っている。

：日本経済新聞（2018.2.1）等をもとに作成

また中国インターネット情報センター（CNNIC）によると17年6月の時点で世界のAI関連企業の総数は2,542社に達しており、そのうち米国が1,078で全体の42.4%を占めてトップだが、中国の企業数は592で全体の23.3%を占めており、ここでも第2位である。18年3月に発表された17年の国際特許の出願総数でも、日本を抜いて米国に次ぐ第2位となっている。

◆スピード感ある官民一体の支援体制が特徴

カメラに写った画像で瞬時にAIが個人を特定する、中国政府主導のAI搭載型監視カメラネットワーク「天網プロジェクト」のような、プライバシーの問題で他国では試行すら難しい技術を中国は既に実用化している。またAIの応用分野である自動運転を実現するため、08年3月に上海市は国内首位の上海自動車とEV主力のベンチャー企業蔚来自動車に路上テストの免許を交付するとともに、「上海市知能網聯（AIコネクテッド）公道テスト管理弁法（試行）」も制定して、公道テスト実施のための基本ルールを定めた。このようなAIの実用化に向けた政府による手厚い支援も中国の強みである。中国はAI分野で米国に次ぐ2位のポジションを確実にし、その差を詰めつつある。

【森山博之】